

停電の中で

どこまで災害が続くのか。豪雪から始まり濁水・猛暑、豪雨、台風、地震。驚異を感じずにはいられませんが、市内にも爪痕を残した台風21号は、典型的な風台風でした。被害が集中した地域の東側では、屋根や外壁の損傷、倒木は数知れず、市の指定文化財で樹齢400年を超えるといわれる大崎の象徴「てんまる杉」も被災。新市となり最も広範囲となる、停電にも見舞われました。最大時2,400戸。電力会社の懸命な復旧作業が続けられましたが、家が揺らぐ大風の中で、多くの人が不安な一夜を過ごされたことと思います。

深夜の市庁舎で中越地震を思い出していました。当時、私は消防団部長。避難勧告が出され、その活動で顧みれなかった家族のことを後で聞かされました。余震の続く中「まずは食」と、気丈に立ち上がったのは女性陣。元旅館の我が家には灯油ストーブが何台もあり、近所十数軒が我が家に集まりお母さん方が煮炊きをしたと。不

安の中ゆえの肩寄せ合う心情。母性の強さとやさしさ。その乏しい灯の中で出た母の昔語り。私は幼いころから何回も聞いた「伊勢湾台風」の話。暴風で家が潰れても助かるようにと、亡祖父が家の土間に瞬間に俵を組み上げ母たちを隠れさせた。母は自慢げに「とと(父)は強かった」と語る逸話。しかし、父性の何たるかがそこにあるように今は感じられません。非常時だからこそ気づかされる、便利になりすぎ忘れていた家族の絆や役割。今回の停電の後日譚で少し嬉しかったことがあります。

あるお宅で小学生の兄弟が「今日は僕らのご飯を作る」と台所に立ったと。子どもたちも本当は不安隠しだったのかもしれないが、親を思う心と解したい。

いつものテレビもつかない、ラントンや懐中電灯の灯下で食卓には違いはない。しかし、一方で家族のカタチを思われたのではないか。その時、お父さんやお母さんは子どもに何を語ったのかな、と考えたりしていました。

国際大学留学生 お国自慢コーナー ～ boast of my country ～

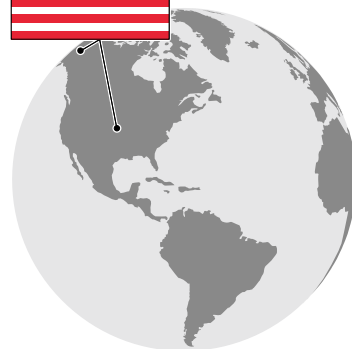
シリーズ
第66回

アメリカ合衆国(米国) ボーザック・マイケル・マッカーサー さん



私の国はこんなところ

アメリカ合衆国は、文化、宗教、風景、気候において、世界で最も多様性に富んだ素晴らしい国です。どの州も特徴があり、二つとして似た街はありません。私のふるさととはカリフォルニア州ロサンゼルスです。広大な都市で、きれいなビーチ、ユニバーサルスタジオやディズニーランドなどのアミューズメントパーク、魅惑のハリウッドがあります。ニューヨークは小さな街ですが何でもあり、「眠らない街」として、いつもどこかで何かが起こっています。想像以上の発見があります。



南魚沼市に住んで感じたこと

私は、日本全国39都道府県に行ったことがありますが、南魚沼が一番好きです。浦佐毘沙門堂裸押合大祭のような素晴らしい祭りや、池田記念美術館のようなきれいな美術館、おいしいコシヒカリや八色スイカなど、いいものがたくさんあることはもちろんですが、私がこの1年、南魚沼で過ごした中で一番だと思うのは、日常生活です。日々の自然の美しい移ろいや、近所の人たちの親切が日常的にあるおかげで、南魚沼での暮らしは最高です。地域の人々と共に暮らせることに感謝しています。

アメリカ合衆国(米国)

[公用語] 英語
[首都] ワシントンD.C.
[面積] 9,628,000km² (3位)
[人口] 327,830,000人 (3位)
[GDP(PPP)] 19兆4171億ドル (2位)
[通貨] ドル (USD)

※GDPは国内総生産のことで、購買力平価説 (PPP) により算出した数値です